

子宮頸がんを予防する、ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン

キャッチアップ接種のお知らせ

HPVワクチンキャッチアップ接種

来年3月まで
無料

まだ接種していない、**1997/4/2**～

2008/4/1 生まれの女性
(16歳～27歳)

期限：2025年3月31日まで

住民票がある自治体で接種：手続き不要

住民票がある自治体以外で接種：

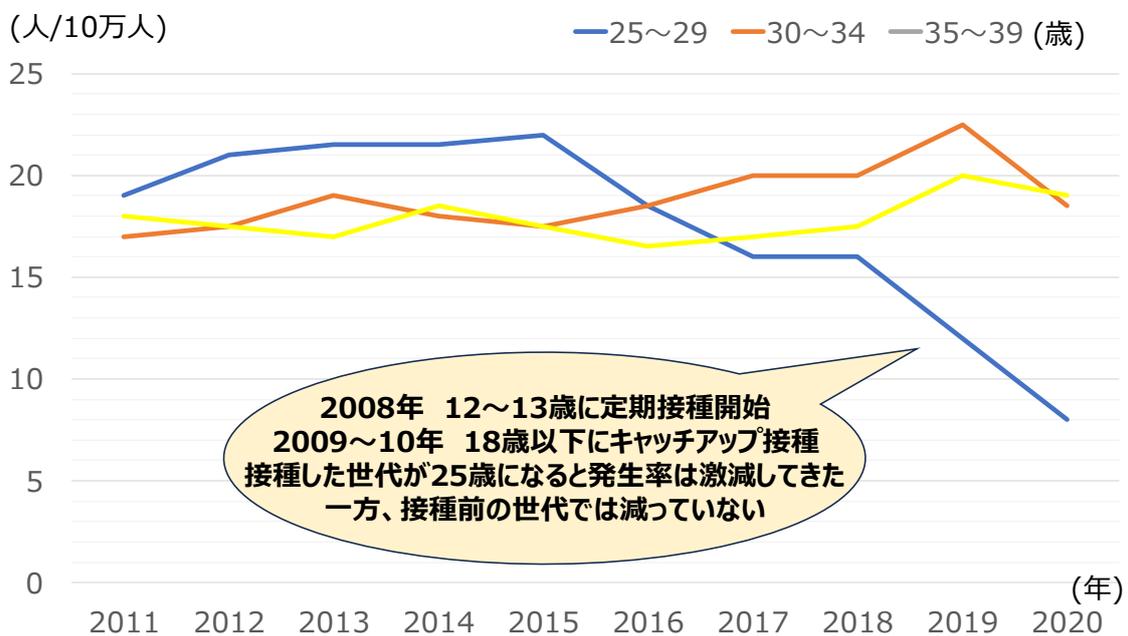
住民票ある自治体の役所で事前に手続きが必要（オンラインで可能なところも）

HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンは子宮頸がんをはじめとする HPV 関連がん（肛門がん、外陰部がん、膣がん、陰茎がん、中咽頭がん）の予防を目的に開発されたワクチンです。日本では年間約 1 万人が子宮頸がんになり、約 3000 人が死亡しています。子宮頸がんは 40 歳以下の若年女性におけるがんの死亡者数では乳がんが続いて第 2 位となっており、壮絶な闘病の末まだ成人していない子供を残して逝くという悲劇が生じたり、命は助かってでも妊娠・出産に支障をきたすなど、少子高齢化に悩む日本では最優先での対策が望まれるがんの一つです。子宮頸がんの原因の 90%以上が HPV と考えられており、HPV ワクチン接種の普及により将来の根絶が期待されています。

日本では 2013 年に HPV ワクチンの定期接種が始まりましたが、まもなく接種後の副反応の恐怖を煽る加熱した報道がなされた影響でワクチンの安全性への懸念が高まったことから、定期接種開始から数ヶ月で HPV ワクチンの積極的な推奨は中止されました。

その後の国内外における複数の調査では HPV ワクチンの安全性には大きな問題がないことが明らかになり、**2022 年 4 月より積極的な接種の推奨が再開**されています。

英国の子宮頸がん発生率の年齢別年次推移

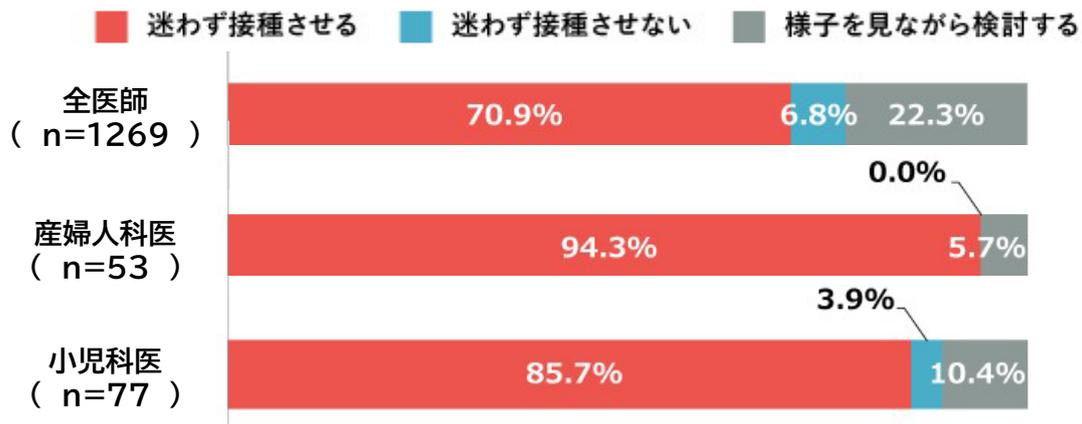


英国 NHS : National Disease Registration Service の統計より引用

早期に HPV ワクチンの接種を開始した国では**接種年代の女性の子宮頸がんが大幅に減少**していることが報告されており、このままでは積極的な推奨が差し控えられていた約 8 年間に接種の機会を逃した若年女性の間で、防げる可能性があった子宮頸がんによる健康被害が生じてしまう恐れが危惧されています。国はその対策として、**誕生日が 1997 年 4 月 2 日～2006 年 4 月 1 日の女性に対して、2025 年 3 月末までは住民票のある自治体の医療機関で、公費によって無料で HPV ワクチン接種を受けることができる**事業を実施中です。(HPV ワクチンキャッチアップ接種)

専門家はどうか考えている？

Q. 中学生の娘がいる場合（もしくはいると仮定した場合）、子宮頸癌ワクチンを迷わず接種させますか？



- ・ 調査期間： 2021年5月29日～6月4日
- ・ 対象： 医師 1269人

キャッチアップ接種の対象者は3回の接種を受けることができますが、3回目接種の目安は初回接種から半年後なので、3回とも無料で接種したい場合は9月いっぱいまでには接種を開始するのが望ましいです。自費で接種すれば10万円ほどする高価なワクチンですので、キャッチアップ接種の対象ながらまだ接種していない方は是非ともこの機会をお見逃しなく！